# 平成２８年度第３回宗像市幼児教育審議会

## 議事録（要点筆記）

期　日：　平成２８年１０月１８日（火）
時　間：　１９：００～２１：００
会　場：　宗像市役所本館 304 会議室

| 審議会委員 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 船越　美穂 | ○ | 河本　博子 | ○ | 納富　恵子 | 欠 |
| 新塘　元哉 | ○ | 元岡　充代 | ○ | 横川　哲朗 | ○ |
| 髙杉　洋史 | ○ | 幸　政恵 | ○ | 綱脇　陽子 | ○ |
| 檜山　理恵 | ○ | 安藤　周治 | ○ | 髙松　美香 | ○ |

| 事務局 | | | |
|---|---|---|---|
| 清水　比呂之 | 村上　治彦 | 薄　伸也 | 早川　靖彦 |
| 橘　正代 | 松尾　恵実 | | |

【事前配布資料】
・宗像市幼児教育振興プログラム　第１章～第６章（素案）
・宗像市幼児教育振興プログラム　第６章　基本施策（素案・修正見え消し版）
・宗像市幼児教育振興プログラム【平成 24 年度～平成 28 年度】

**１　挨拶（省略）**

**２　前回議事録の確認**

前回議事録については修正なしで承認された。

**３　議事**

【第６章　基本施策】

■１.保育所・幼稚園・認定こども園における充実した幼児教育の提供

≪事務局からの説明≫

第６章の基本施策については、前回の審議でいただいたご意見を参考に作成した。（１）については、変わっていない。（２）では、「運動経験ではなく、遊び経験という表現の方が良い」とのことだったので、そのように表記した。

また、「非認知的能力」については、前回の会議で、一般市民の方には難しいのではとのことだったが、この幼児教育振興プログラムは本市の総合的な幼児教育の指針であり、これからの５年間で大事なキーワードになると判断したため、そのまま残すこととした。「非認知的能力」の前に、「意欲、協調性」など並べることで内容を想像しやすい表現とした。

そして、「環境」についても、「人的、物的」ともに整えることが大切であるため、そのことを明記した。

≪意見≫
（２）について
◇「自尊心や、意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性など」長いので、似た意味の言葉をまとめるなど整理してはどうか。自尊心等の言葉を並べて詳細に書いているのは親切だが、いくつかに絞った方が良い。

◇計画性という言葉が使われているが、大人でもできないことがあるのに、幼児には難しいのではないか。

◇「現代的な諸課題」とは、何があるのか。
⇒体験不足、コミュニケーション不足などを総称したものである。

■２．発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実
≪事務局からの説明≫
２は、（１）①が先生同士の交流のこと、②が子ども同士の交流のことを述べている。①②ともにタイトルに「保育所・幼稚園・認定こども園と小学校」とあり、長かったため削除し、わかりやすい表現とした。
また、①については、文末「推進する」の後に分を加えて、連携・接続強化することを強調した。②の内容については、「不安を解消する」という言葉を「期待を高め、環境に慣れる」という明るく前向きな表現とした。
そして、幼児と児童との交流については、これからの様々な交流活動の推進を想定し「相互間の行事への参加等」とした。
（２）については、「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」の言葉は分かりにくいのではないかとのご意見をいただいたが、平成３０年度に実施の学習指導要領の改正等を見据え、将来を見越した場合、この用語を入れておく必要があると判断した。

≪質疑≫
◇（２）「教員」とはどの教員を指しているのか。
⇒幼稚園・認定こども園・小学校の教員を総称している。

◇（１）①「保育士や教員間」という言葉について就学前の幼稚園等の教員と小学校の教員との連携ということだと思うが、わかりにくい。保育者と教員という言葉にしてはどうか。
⇒「保育者」という言葉については、次の３で出てくるため、ここでは使用していない。事務局で検討をした結果の表現である。

≪意見≫
◇表記が長くても、誤解のない表現にしたほうがよい。

◇（１）②の「環境に慣れるために」を「円滑な接続を図るために」とした方が良い。

■３．保育者（保育所保育士・幼稚園・認定こども園等教員）の資質及び専門性の向上
≪事務局からの説明≫
（１）については、変更はない。（２）については、「食育、特別支援教育」など具体的な言葉をなくし、「研修」にかかる言葉として「豊かな幼児の発達を促進する」とした。「豊かな」という言葉は、文部科学省の中央教育審議会が子どもの最善の利益のために幼児教育を考える（答申）の「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」の中でも、繰り返し出てくる言葉であるため、この表現とした。

≪質疑≫
◇「幼稚園・認定こども園等教員」とあるが、「幼稚園・認定こども園教員等」の表現の方が良いのではないか。
⇒「等」には、届出保育施設教員の意味があるため、この場所に「等」を置いている。

≪意見≫
◇（１）文中の並びとして、県よりも先に国を標記するべきではないか。

◇　タイトルの保育所保育士のあとは、「・」ではなく「、」で表現すべきである。

■４．保育所・幼稚園・認定こども園における家庭や地域社会の教育力の再生・向上
≪事務局からの説明≫
（１）①では、「保育所・幼稚園・認定こども園」という言葉が何度も出てきてわかりづらいとのため、「それらの施設」とまとめた。また、保育所等へ通っていない家庭のことを「未就園児のいる家庭」と置き換えた。
②では、中学校の家庭科授業で中学生と子どもたちが触れ合う子育てサロンや子育て支援センターのことを加えたため、認定こども園の後に「等」と付け加えた。また、「中学生職場体験学習」と正式名称に改めた。（２）については、「情報提供等」の「等」を削除した。

≪意見≫
◇目標４の中の「当該園児」という言葉はわかりにくい。
⇒「在園児」という言葉にあらためる。
◇（１）②の最後の文中、「養育」を「保育」という言葉に変えた方が良い。

≪質疑≫

◇（１）②子育てサロンなど、すでに行われている事実をここだけ述べている。ここに挙げるのは適切か。

すべての中学校で開催されていると保護者が誤解するのではないか。実態はそうではなく、すべての中学校での実施が難しい状況である。書くことで実施を促す効果もあるかもしれないが、学校全体に協力を仰ぐこととなる。

⇒全中学校で実施できていないことと、ここで表記するのは課題が多いため、事務局でも載せることについて検討する。

■５.特別な支援及び特別な配慮が必要な子どもに対する総合的な支援の推進

≪事務局からの説明≫

５では、「特別な支援が必要な子ども」に、「特別な配慮が必要な子ども」を並列した。（１）は今までの６つの柱の１つであり、（２）は新たに、子どもの多様な環境により支援体制を必要とすることを加えたものである。新たに（２）の内容を入れたことに伴い、タイトルに「及び特別な配慮」と加えた。

この項目については、市役所内の子ども家庭課、福祉課、男女共同参画推進課の担当者と内容や表記について協議した。（１）は特別な支援が必要な子ども、（２）では多様なニーズを必要とする環境にある子どものことを述べている。そのため、この２つを一緒の項目とするのは、違和感があるとの意見があった。

検討した結果、６つの柱の中では、この５番目に（２）のことを入れ、タイトルに「特別な配慮」を入れることが適切であると考えた。そして、その案を持って、福岡教育大学の納富先生を訪ね、お話を伺った。現状としては、このタイトルで良いとのことだった。障害者差別解消法が平成２８年４月に施行されたこと、インクルーシブ教育についてもこのプログラムに載せることが必要なことから、「第１章　趣旨」と「第３章　基本的な考え方」に盛り込んだ。また、新塘委員からも意見をいただいた。支援が必要な子どもの早期発見、各関係機関との連携、支援体制についてなど貴重な意見をいただき、この案を作成することができた。

≪意見≫

◇目標と（１）から「より効果的で」という言葉を削除した方が良い。

◇目標の「乳幼児一人一人の環境に応じて」の「環境」の前に「特性や生活」と入れた方がわかりやすい。

◇早期発見はできているので、「早期介入」という言葉を入れた方が良いのではないか。

◇支援体制の充実という言葉には、介入という意味も含まれるので、このままの表記で良い。

◇特別支援の現場では、（１）中の、「効果的な支援」という言葉は使用しない。「適切な支援」

という言い方をする。目標と（１）中について「特性にあった適切な支援」としてはどうか。

◇「特性に合った支援」という言葉はある。子どもの特徴をとらえて支援すると、それぞれの子どもに合った育ち方をする。

■６．生涯学習振興施策における家庭や地域社会の教育力の再生・向上

≪事務局から≫

前回審議で（１）（２）の内容の変更はなかったため、承認されたと考えている。

第３期振興プログラムでは、家庭教育支援に特に力を入れていきたいと考えている。内容に付け加えなどある場合は、ご意見をいただきたい。また、次回は具体策について、ご意見をいただきたい。

≪意見≫

◇６のタイトルに「生涯学習振興施策における」とあるが、生涯学習という言葉よりも、もっと平たい表現の方が良いのではないか。

**第１章　趣旨（素案）**

≪事務局からの説明≫

まず、第一段落では、子どもたちを取り巻く環境や、社会情勢について述べている。第二段落では、当市での計画について説明し、第三段落では、当市の自然、文化、教育施設や子育ての環境をうたっている。第四段落では、子どもを育てる上での課題、必要事項、幼児教育と幼児を取り巻く環境について述べた。そして、最後の段落で第３期宗像市幼児教育振興プログラムを策定するとまとめた。

≪質疑≫

◇子どもまつりなどの活動についても、子どもの良さとしてあげられないか。

⇒子どもの育ちという視点では、ここ数年子どもの積極性などは見られるが、良い環境としては挙げることができるが、子ども自身の良さとしてあげるのは難しい。

◇平成２５年度の子どもの実態調査から何か挙げられないか。

⇒体験不足等の問題点はそこから挙げている。

◇地域に応じて、子どもたちにはさまざまな体験があるので、市全体の子ども像としての表現が難しい。　⇒就学前のあたりで、何か表現を検討する。

◇北九州と比べると、宗像市は非行の子どもが少ないように感じる。親としては、そうしたことも気になるので、長所として挙げられるのでは。

⇒参考にする。

≪意見≫
◇計画については、年度と正式名称を入れた方が良い。

◇「家庭、行政、企業、地域住民」など、並べる順番を確認すること。（下から６行目も）
表記の順番等の基準を決めるべき。第３章、第４章にも同じ表現がある。

◇宗像の子どもは、挨拶をよくしているように感じる。

◇挨拶がよくできても、コミュニケーションが不足しているという課題表記については矛盾がある。

◇第１期の幼児教育振興プログラムでは、統一テーマが「挨拶」だった。保育所・幼稚園でも、挨拶を意識して取り組んでいる。

◇１５行目の保育所、認定こども園、幼稚園は並び順を他とそろえるべき。

◇宗像市の子どもの長所はどこか。全国的にみて学力が高いことなどがあるが、他に何が挙げられるか。

◇１番に学力を長所として挙げると、学力を重視しているような表記となるため、他の表現にしてはどうか。

◇「しかし～」の第４段落で、子どもの育ちについての問題が提起されているが、まず長所を挙げてから問題点を挙げた方が良い。

◇第４段落の「しかし」を「しかし、一方で」と表記しては。

◇保育園等の数を入れる必要があるか。あるならば「何年度現在」と入れないと変わる可能性がある。

◇１行目の近年という標記についても、いつなのかわからない。年度等入れるべき。

## 第２章　プログラムの位置付け

≪事務局からの説明≫

プログラムの実施期間は平成２９年から３３年までの５年間で、国や県の動向や幼児教育をめぐる状況に大きな変化が生じた時は、必要に応じて対応していく。

また、プログラムの性格は、家庭や地域社会を含んだ０歳から小学校就学前の幼児教育に

関わるすべての機関を対象とした、当市の総合的な幼児教育の指針である。

そして、プログラムの位置づけとしては、第２次総合計画の基本方針を踏まえ、併せて「宗像市子ども基本条例」の理念に基づいた「宗像市子ども・子育て支援事業計画」と整合性を図って、幼児教育の充実を目指したものである。

## 第３章　基本的な考え方

≪事務局からの説明≫

第１段落では、幼児期の育ちについての説明をしている。幼児が生活や遊びを通して、人格の基礎を築き、生きる力を身に付けていくことを述べている。第２段落では、幼児期にすべての子どもが健やかに成長するために、幼児を取り巻く環境を整備することの必要性を述べた。

そして、第３段落では、幼児の生活は環境の中で連続的に営まれていること、幼児一人一人に応じた対応ができるように、家庭や地域社会、施設との連携・協力が必要であることを記述した。また、多様なニーズのある子どもの早期発見、支援ができるよう支援体制の充実を図ることを新たに入れた。

第４段落では、現在課題となっている親育ちの支援について述べている。最後の段落で、保幼小の連携や様々な子育て支援を推進することと、家庭・地域のコミュニティ・市民活動団体等相互に連携を図り、幼児教育の質の向上を図ることを述べている。この内容は、第６章の基本施策の６つの柱と関連している。

≪意見等≫

◇第１段落の「生きる力」を、「生きる力の基礎」としてはどうか。

◇第２段落の「遊びや生活」の順番を、第一段落の「生活や遊び」の順番に揃えたら良い。

◇最近はご飯を食べない子どももいる。「生きる力」については、自分たちが子どものころと様子が違い、食育もあえて行わないといけない状況となってきている。「生きる力」についての説明は難しい。

◇「すべての子ども」という表現について「すべて」というのは難しいのではないか。
⇒指針なので、願いとして「すべての子ども」という表現を使用している。

◇「多様なニーズがある子」という表現が分かりづらい。
⇒支援を必要とする全部の子どもを対象とするため、この言葉を使っている。

◇「子」を「子ども」に表記の統一を。

◇第３段落の「幼児の生活は～重要である。」の文章は必要がないのではないか。

◇文書の中間で、「インクルーシブ教育」の前に「また、」と接続詞を入れた方が良い。接続詞が無いと、前の文書と同列のようになり、わかりにくい。

◇第４段落の「また、子どもの育ちに喜び」を「また、子どもの育ちに気付き、喜び」へすると良い。

◇下から８行目の「生きがい」という言葉について、重たく感じるため、別の表現はないか。

◇「生きがい」という言葉は別の言葉に置き換えると良い。

◇子育てにおいて、今この瞬間の子どもを一生懸命に見て、育てているので、子どもの成長については気付きにくい。子どもの成長に気付いた瞬間に喜びを感じるのではないか。

◇子育てにおいては、同じ境遇の人とのつながりが必要である。ゆとりより安心、自信というより（子育ての）面白さ、楽しさを感じられると、つらくないのではないか。

◇親が子育てに自信を持っていたとしても、子どもの実態が親の想いとは異なることがある。

◇子育てに自信がある人はいないと思うので、「～の施策が必要である」などの表現をすれば、親育ちの支援がなぜ必要なのかがわかりやすくなるのではないか。

◇自信と明記することが親へのプレッシャーとなるのではないか。

◇つながり、安心というキーワードを入れ、保護者が子育てに希望を持てる文章にしてはどうか。

## 第４章　育てたい幼児像

≪事務局からの説明≫

育てたい幼児像については、基本的には変わっていない。まず、一番始めのところに囲みの部分を持ってきた。２行目の「環境」の後に「とのかかわり」の分を加えた。

そして、【共通目標】の後に文章を加えている。これは、第１期プログラムにあった文章を復活させたものである。この文章を載せることで、キャッチフレーズをよりわかりやすくする表記になると考えた。

囲みの下の文章は、第１段落に当市の環境のことや育てたい幼児像を具体的に挙げている。最初に挙げている「自己肯定感」は、毎年実施されている調査の結果、宗像市の子どもたちは全国平均よりも自尊感情が低い傾向がずっと続いている状況である。この「自己肯定感」を持てる子どもになってほしいとの願いから一番始めに述べた。

また、「他者への信頼感、感情調整力、粘り強くやり抜く力など」も子ども一人一人の「生

きる力」につながる。豊かな感受性を身に付け、自然現象や社会現象へ関心を持つ子に育てたいという強い想いからこの表記をしている。

育てたい幼児像を実現するために、保育所・幼稚園・認定こども園、家庭、地域の連携の大切さを述べている。

≪意見≫

◇「本市は、自然環境に恵まれており」の後に、「歴史的文化遺産も豊かで」という言葉を入れてはどうか。

◇「本市の子ども一人一人が生きる力を持ち」という表現は大切である。

◇「自然現象」「社会現象」と、「自然事象」「社会事象」のどちらが適切か、言葉の整理をし、どちらを使うか検討してほしい。

◇囲い下の文章の第２段落中、「関心のある子」を「関心と、それらを大切にすることができる子ども」へした方が良い。

## 第５章　これまでの取り組み

≪事務局からの説明≫

第２期のプログラムでは、６つの柱に沿っての取り組みの表記であったが、今回の分では「第１期の主な取り組みと成果」「第２期の主な取り組みと成果」というまとまりで、それぞれの期での取り組みと成果を記述している。

第１期では、保育所と幼稚園の行政窓口の一元化を行ったこと、保幼小連携に向けての組織・しくみづくりができたことを述べた。第２期では、第１期の取り組みを継続して行い、保幼小の連携・接続を強化したことを述べた。

≪意見≫

◇第１期、第２期について、時期がいつからいつまでかを明記する。

◇第２期の第３段落は、「当市の機構改革」についての文章を先にする。

<u>全体を振り返って</u>

≪事務局からの問いに対しての審議委員の意見≫

用語として分かりにくいものについて注釈などの工夫をするべきか意見をいただきたい。

⇒◇言葉の変化が激しいので、注釈は入れたほうが良い。

◇細かいと分かりにくいので、重要なキーワードにあると良い。

◇アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムという言葉には注釈があった方が良い。

◇それぞれの計画の対象年度を入れた方が良い。